3-2. 随時尿による食塩・カリウム推定摂取量と尿ナトリウム/カリウム比の 10 年後の比較：NIPPON DATA2010

研究協力者　北岡　かおり（国立健康・栄養研究所 産官学連携研究センター 研究連携推進室）
研究分担者　門田　文　（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門）
研究分担者　由田　克士　（大阪公立大学生活科学部食栄養学科）
研究協力者　岡見　雪子　（群馬大学食健康科学教育研究センター）
研究協力者　近藤　慶子　（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門）
研究分担者　原田　亜紀子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター医療統計学部門）
研究分担者　奥田　奈賀子（京都府立大学大学院生命環境科学研究科）
研究分担者　大久保　孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座）
研究分担者　岡村　智教　（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室）
研究代表者　三浦　克之　（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門）

【目的】全国の一般地域住民を対象に、随時尿で評価した推定食塩摂取量、推定カリウム摂取量、尿ナトリウム/カリウム比（Na/K 比）について、性・年齢群別および地域別にベースラインと 10 年後の変化を比較検討した。
【方法】NIPPON DATA 2010（平成 22 年国民健康・栄養調査参加者を対象としたコホート研究）の 2020 年度追跡調査対象者 2,244 人のうち、尿検査同意者 798 人に自己採尿キットによる尿検査を実施した。推定食塩摂取量（g/日）および推定カリウム摂取量（mg/日）は田中の式を用いて算出し、尿 Na/K 比（mmol/mmol）を算出した。2010 年時と 2020 年時の両方の尿検査結果を有する 667 人（ベースライン平均年齢 54.8±13.4 歳、女性 59.1%）を解析対象とした。性・年齢別に 4 群、地域は 7 地域に分類し、ベースラインと 10 年後の比較には対応のある t 検定を用いた。
【結果】ベースライン時と 10 年後の性・年齢区分による比較では、推定食塩摂取量はすべての群において有意差を認めなかった。推定カリウム摂取量は男性 60 歳以上群、女性 60 歳未満・60 歳以上群で有意に高値を示し、男性 60 歳未満は 10 年後が高い傾向を示した。尿 Na/K 比は男性 60 歳以上群：ベースライン 4.14±2.57、10 年後 3.38±2.10 (P=0.002)、女性 60 歳未満群：ベースライン 4.05±2.23、10 年後 3.44±1.91 (P<0.001)、女性 60 歳以上群：ベースライン 3.76±1.79、10 年後 3.03±1.78 (P<0.001) であったが男性 60 歳未満では有意な差を認めなかった。地域区分別では、尿 Na/K 比が東北、関東、近畿で 10 年後に有意に低値を示した。
【結論】全国の一般住民においてベースラインと 10 年後の尿検査値を比較した結果、女性および 60 歳以上男性は推定カリウム摂取量が有意に高値、尿 Na/K 比が有意に低値を示した。本研究において特定の性、年齢群や地域における対策強化の必要性が示唆された。

日本公衆衛生雑誌. 2026, 73(2), 139-146. doi:10.11236/jph.25-021.